

ど：…とすると私のいる席はいつも理科部会であった。それともも教室の中隔で小さくなって先生の熱心な研究発表を聴いていると、なぜか自分まで高まる思いがしてならなかったが、もしもでない。今回、私の歩を理科部会に向けさせたのもそうしたイメージが私の脳裏の片すみであったからにちがいない。

と二三で、このような集会の場には、いつも私は次のようなことを考えながら参加させてもらっている。その一つは、今やっていることが研究のための研究に当たっていないかどうかということである。私たちの研究は子ども不在である。私たちの研究は子ども不在である。つてはならないはず、自然発生的で、しかも必要性のある研究。その研究が子どもたちの開発に生かされる価値の高い内容をもつものであるかどうかということである。

はなしたるうが、もしそれが現実にあるとするならば、大いに反省しなければならぬような気がする。今回の研究発表は、そうした私なりの考えを十分みたくてくれなように思ふとも、私なりにまた少し高まつたような感じがする。今、仮に教師にそれ相当の研究費と時間が与えられたならば、現在の研究もより内容の充実した子どもたちに生かせる現実性豊かなものになりはしないだろうか。とつくづく考えさせられたが、そう思ったのは私ひとりだろうか。

今後も続くであろうこの研究会のためにも、研究の目的内容が子どもにはわかせるものであるならば、なんらかの方法又は制度化により、時間と研究費の位置づけ等がなされなければならぬと考えるが、どんなものであるうか。

オ六時―養分とヒナのからだ。問題点と反省点。オ一時。内部観察がおわって肝が成長してヒナになるところは説明しなかつた。何がヒナになるのだからという質問に対して、卵黄と肝、肝は目、卵黄は肉、卵白は羽、肝は心臓、肝と卵白は内臓、卵黄はヒナの毛に、肝が成長するなどと予想するものが多かった。この点オ五時まで観察して肝が成長してヒナになるという見方が充分把握できなかつたようである。

オ二時。種の発芽の条件を想起させて肝の成長を考えさせたが、温度は理解できても、水分や空気は卵の内節にあるから外部から取り入れる必要はない。また内部に入っているかと考えているものが多い。

オ三時。内部観察を行わふ卵3日め前と長と、肝と養分を考慮しながらおして見方若々るべきだと考え

オ四時。卵黄が視覚的にさびしく減少する必要ではない。

オ五時。卵黄が視覚的にさびしく減少する必要ではない。

オ六時。卵黄が視覚的にさびしく減少する必要ではない。

オ七時。卵黄が視覚的にさびしく減少する必要はない。

オ八時。卵黄が視覚的にさびしく減少する必要はない。

オ九時。卵黄が視覚的にさびしく減少する必要はない。

オ十時。卵黄が視覚的にさびしく減少する必要はない。

オ十一時。卵黄が視覚的にさびしく減少する必要はない。